

新刊紹介

編集委員会

□『うめしゅんの世界花探訪』・梅沢俊（著），
B5判．160頁．2020年12月23日．北海道
新聞社．2,200円＋税



本書の冒頭で筆者は次のように記している。“この本は、わが人生後期の花旅のダイジェスト版といえる。本文は2012年から約4年間、北海道新聞情報サービス

発行の媒体「花新聞ほっかいどう」に掲載した内容に加筆・修正、新たな植物を紹介したページも加え再編集した。”

内容は、海外と国内に大きく分けて書かれているが、海外は「青いケシ」への思い入れもあり多く取り上げられている。国内は北海道のほか本州の野草も取り上げている。

記述されている一つ一つの野草はどれも景観を含めた植物の花の写真と観察地までの経路の状況やその植物に関心を抱くに至った経緯、生育地の様子などを飾らぬ文章で記されていて一般読者がどこからでも気軽に読める本になっている。

しかし取り上げている植物は著者が特に関心を寄せてきた植物ばかりであり、海外では29種取り上げていて、厳選された写真は素晴らしい。特に中国やヒマラヤの「青いケシ」に対しては少々無理をしてでも見に行くという執念を感じさせる。

国内は32種取り上げているが、希少種を含めなかなか見ることの難しい植物や、新種や新産地登録の候補となっているものも載せている。当コラム担当の筆者も興味のあるものも多く、また関わったことのある植物などもあり興味の尽きない一冊である。

□『あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅』・北海道博物館（編），A4判．134頁．2021年7月10日．北海道歴史文化財団．900円



本書は北海道博物館第7回特別展として企画された「あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅」の展示図録である。本企画展の開催期間は2021年7月10日

から9月20日の予定であったが、7月21日からコロナ禍のため臨時休館となり10日間あまりの開催で終了となったものである。このため本展示を鑑賞できたのは少人数に限られたと思われることもあり、この図録により展示内容や解説を紹介することで補完したい。

本書の解説はコラム様式で簡潔に多くの項目別に各分野の研究者により分担執筆されており、専門用語を極力使用せずに一般読者にも配慮した平易な文章となっている。また湿地というと野鳥が主役となるので、植物や動物は掲載や展示スペースはやや限られてくる。

展示物を順に挙げると、第1章「世界は湿地でつながっている」ではマガン・オオハクチョウ・ヒシの実・タンチョウ・ヤチボウズ・泥炭地層のはぎ取り標本など6点が展示され、解説としては湿地と渡り鳥、湿地の基礎知識などである。

第2章は「湿地の生きものたち」で、本書に植物関連で取り上げられている項目はウリュウコウホネ・ウキミクリ・エゾノミズタデ・クシロハナシノブ・「ヤチボウズ」・ナガバノモウセンゴケ・「ほろむい七草」・「アイヌ民族と湿地の植物」・「サハリン先住民の暮らしを支えた湿原」である。

展示会場で展示された植物標本は乾燥標本12点、腊葉標本48点、樹脂封入標本11点であった。魚類標本はイトウ・サケなど33点、鳥類標本はマガン・オオハクチョウなど70点、哺乳類標本はトウキョウトガリネズミなど3点、貝類標本10点、昆虫標本1,500点となっている。

第3章は「消えゆく石狩大湿原」で、石狩川の中・下流域の変遷や泥炭と農業に関わる資料を100点あまり展示し解説している。この中には「ほろむい七草」7点の標本も含まれている。本書では11項目で解説がある。

第4章は「北海道あっちこっち湿地」で道内の主な湿地や湖沼が対象である。本書では釧路湿原をはじめ20項目の各湿地や関連項目を図版と解説がある。会場の展示は野付湾の打瀬船漁の模型ほか4点である。

本書を通読して読者は北海道の湿原にこれまで以上に関心を抱かれる方も多いのではと思われる。

本書は北海道博物館1階ロビーの売店で販売している。郵送等での購入も可能とのこ

とで販売価格に加えて送料が必要である。詳しくは北海道博物館総合案内(011-898-0466)まで。札幌市内の市立図書館でも閲覧・貸し出ししている。

□『ひがし北海道の野生ラン』・佐藤照雄(著)、B5判・148頁、2021年12月1日、自費出版、3,300円税込



本書は東北海道4管内(オホーツク、十勝、釧路、根室)に生育するラン科植物60種を掲載しているが、道内には100種が生育するとされる

ので、そのうちの60%をカバーしている。その多くは太平洋側の寒冷な海沿いの草地や湿地、樹林下で自生するとしている。

本の構成は、一つの種に左右見開きの2ページを使い、左のページは大判の画像でその種の美しさや魅力を表現し、下に生育地の状況・和名の由来・種小名の意味・花言葉などの解説がある。右のページは5枚の画像が割り当てられ生態写真、花の特徴がわかる写真、子房のねじれ・果実・むかごなどの写真、花の各部位がわかる写真を掲載し、それぞれ解説が載っている。花の拡大画像は深度合成の手法で撮影されたので鮮明な画像が得られている。

また、同じ属内の似た複数の種を識別するのに便利な画像にもページを割いていて、サイハイラン属、シュスラン属、ミズトンボ属、クモキリソウ属、サカネラン属、ツレサギソ

ウ属を取り上げている。

巻末には北海道産ラン科植物 100 種のリスト、東北海道ラン科絶滅危惧種 22 種のリストが載っている。

著者はこれまで道東をベースにした写真展を開催し、作品集を出版されているが、植物では 2018 年自費出版の「釧路のスマレ フォト & ハンドブック」があるが、道東在住の地の利を生かし 10 年をかけて野生ランを追い求めてきた結実が本書の刊行となったものであり、本書を見て改めて道内の野生ランの魅力に触れた思いである。

本書は自費出版のため、購入には著者に直接 E-mail などでお申込みください。

- 『美唄市フットパス ハンディ図鑑 1 宮島沼と防風林 春の花』. 新田紀敏 (著), 宮島沼の会 (企画・協力), B6 判. 106 頁. 2021 年 3 月 31 日. エコ・ネットワーク. 1,000 円+税
- 『美唄市フットパス ハンディ図鑑 2 宮島沼と防風林 夏・秋の花』. 新田紀敏 (著), 宮島沼の会 (企画・協力), B6 判. 114 頁. 2021 年 3 月 31 日. エコ・ネットワーク. 1,000 円+税

本書は本会会員である著者のホームグラウンドとも言える美唄にある宮島沼と付近の防風林内に生育する植物を取り上げている。維管束植物約 400 種を図鑑 1 と図鑑 2 とに分冊にして、それぞれ春の 190 種、夏秋の 211 種を分けて収めている解説付きのカラー図鑑である。シダ植物から始まる掲載順は APGIV に準拠しており、巻末の植物目録の学名は平凡社の改訂新版日本の野生植物を採用している。

B6 判 1 ページに 2 種を載せていてそれぞれ 1 枚の写真と要を得た解説があり、必要に応じ補足する画像を入れている。また一般の人に便利な工夫も凝らされていて、掲載する全種を花の拡大写真の花色から検索するページがあり、図鑑 1 では樹木の葉の形からも検索できる。このように初心者にも配慮した小型の図鑑であり、海浜植物を除く石狩平野の植物探索にも使えそうである。

本書は、エコ・ネットワーク、宮島沼水鳥湿地センターで取り扱っている。

(吉中)

